

手取川水系河川整備計画

【大臣管理区間】

平成 18 年 12 月

国土交通省北陸地方整備局

手取川水系河川整備計画

目 次

まえがき	1
第1章 手取川流域の概要	2
第1節 流域の概要	2
第2章 河川の現状と課題	13
第1節 洪水による災害の防止又は軽減に関する事項	13
1 水害の歴史	13
2 治水事業の経緯	14
3 治水事業の現状と課題	15
第2節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	18
1 流水の現状と課題	18
第3節 河川環境の整備と保全に関する事項	23
1 河川環境・河川利用の現状と課題	23
第3章 河川整備計画の目標	28
第1節 河川整備の基本理念	28
第2節 計画の対象区間	29
第3節 計画の対象期間	30
第4節 洪水による災害の防止又は軽減に関する目標	30
第5節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	32
第6節 河川環境の整備と保全に関する目標	33
第4章 河川整備の実施に関する事項	34
第1節 河川整備の実施に関する基本的事項	34
第1項 洪水による災害の防止又は軽減に関する事項	34
第2項 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	36
第3項 河川環境の整備と保全に関する事項	37
第2節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	38
第1項 洪水による災害の防止又は軽減に関する事項	38
1 流下能力の向上	38
2 熊田川・西川の合流点処理	39
3 急流河川の特徴を踏まえた堤防強化	40
第2項 河川環境の整備と保全に関する事項	41
1 多様な生物の生息・生育環境の保全	41
2 魅力ある河川空間の創出	42

第3節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	43
第1項 洪水による災害の防止又は軽減に関する事項	43
1 適正な樹木管理	43
2 ダムの適正管理・運用	44
3 河川情報の公開・提供の促進	45
4 洪水等への危機管理	46
5 霞堤の機能の維持	50
6 河川管理施設等の点検・維持管理	51
7 土砂動態の調査・研究	53
第2項 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	54
1 流況の改善	54
2 良好な水質の維持	55
第3項 河川環境の整備と保全に関する事項	58
1 多様な生物の生息・生育環境の保全	58
2 魚類等の生息環境の保全	59
3 適正かつ多様な河川利用の推進	60
4 河川景観の保全	61
第5章 手取川の川づくりの進め方	62
1 地域と連携した河川・ダムの管理	62
2 河川愛護の啓発	63
3 継続的な地域住民の意見把握	63
(参考資料)	
手取川水系河川整備計画の概要	64
(附図)	
・手取川水系平面図【大臣管理区間】	附図-1
・手取川水系河川整備計画での整備一覧表	附図-2
・大臣管理区間全域を対象に実施する整備	附図-2
・手取川水系河川整備計画施工箇所位置図	附図-3
・手取川水系河川整備計画施工箇所詳細図	附図-4
・手取川縦断図	附図-12
・主要地点横断図	附図-13
・堤防整備箇所	附図-20

～ まえがき ～

暴れ川の異名をとる手取川は、その源を白山に発し、下流部は白山市鶴来^{つるぎ}大国町^{おおくにまち}付近を扇の要とする扇状地^{せんじょうち}を流れる急流河川である。手取川扇状地は、東は富樫^{とがし}山地沿いに、西は能美^{ののみ}山地沿いに半径約 12km、約 110 度の角度で広がっており、上流で発生した土砂が下流へ運搬され、氾濫を繰り返すことで形成されたものである。

近世以降は、堤防を築いて扇状地の河道はおおむね固定されており、流域には、手取川ダム、大日川ダムという 2 つの多目的ダムが完成しており、治水、利水の要としてその機能を発揮している。

しかし、手取川は河口から水源までの平均河床勾配が 1/27 と急流河川であり、洪水時には上流域から下流域へ一気に流下し、扇状地区間では交互砂州の移動等により河岸侵食が著しい。また、扇状地河道の一部区間では河床が堤内地盤より高い天井川区間でもあることから、洪水時にひとたび堤防が決壊すると、氾濫流^{はんらんりゅう}が扇状地の末端まで拡大する危険性を含んでおり、周辺地域では、これまでに洪水氾濫により大きな被害を受けてきた。このように手取川下流域は、洪水氾濫による周辺への影響が大きく、治水面で特に重要性の高い区間である。

一方、手取川扇状地には、先人達の苦勞により恵み豊かな水田として整備された景観的にも良好な田園風景が広がっている。また、その地表面には厚い砂礫層があり、手取川の河川水や水田等から涵養された豊富な地下水を利用した酒造りが古くから行われている等、手取川独特の風土を形成してきた。

かつて手取川では、上流からの土砂供給や、洪水時の河床の攪乱により、石川県の名の由来ともなった『石の河原』が形成され、砂礫河床に依存する生物が多く生息する等、扇状地河川独特の自然環境を形成してきた。

また、近年では、河道内植生の樹林化が進行し、砂礫河床が減少している等、河川環境が大きく変化してきており、治水面、環境面から適切な植生管理が大きな課題となっている。

「手取川水系河川整備計画」では、このような扇状地を流れる急流河川“手取川”の特徴と課題を踏まえ、概ね 30 年間の河川整備の目標と、これを達成するために必要な河川工事等について定めるものである。



手取川扇状地の全景